

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年9月19日

予報期間：9月21日～10月20日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
北日本では、2週目は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

西日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

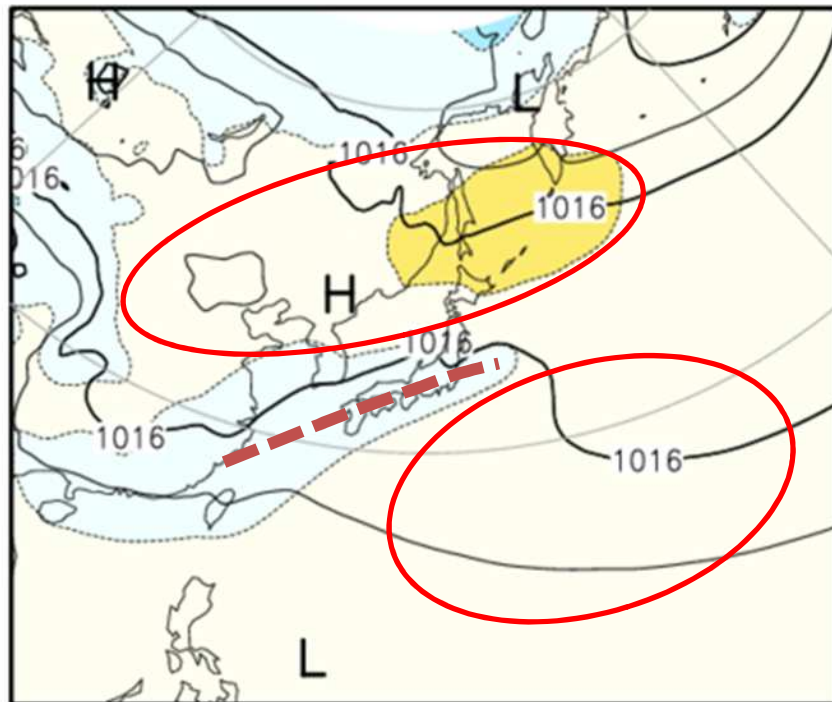
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:30:60	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
東日本	日本海側	10:10:80	20:30:50	50:30:20	
	太平洋側		20:30:50	50:30:20	
西日本	日本海側	10:10:80	20:30:50	50:30:20	
	太平洋側		20:30:50	50:30:20	
沖縄・奄美		10:10:80	20:30:50	50:30:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:40:40	10:20:70	20:30:50
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

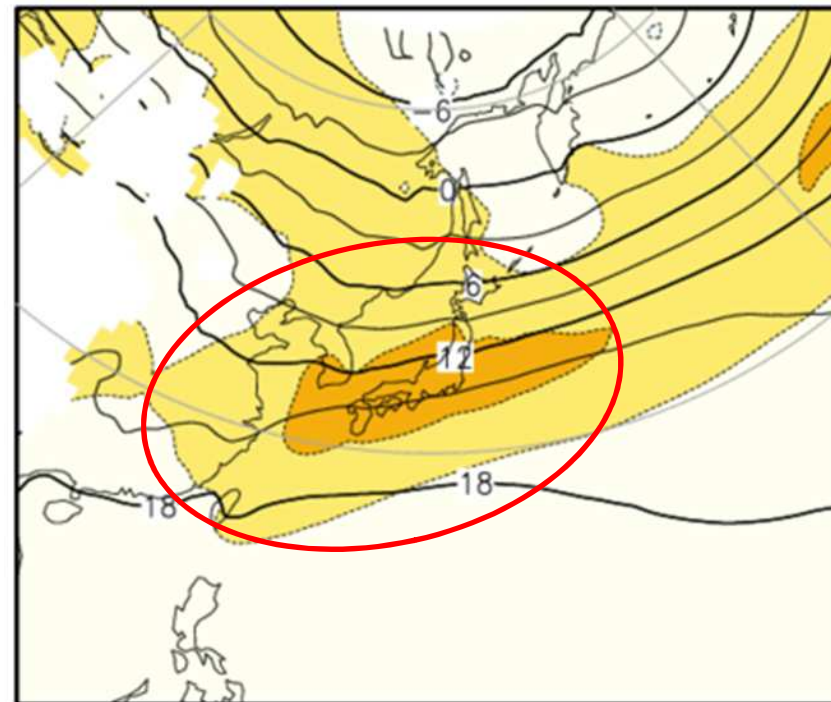
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半はかなり高くなる見込みです。北日本では、2週目はかなり高くなる見込みです。
- ・秋雨前線や湿った空気などの影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東・西日本と沖縄・奄美で多く、北日本で平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東・西日本と沖縄・奄美で少なく、北日本で平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)



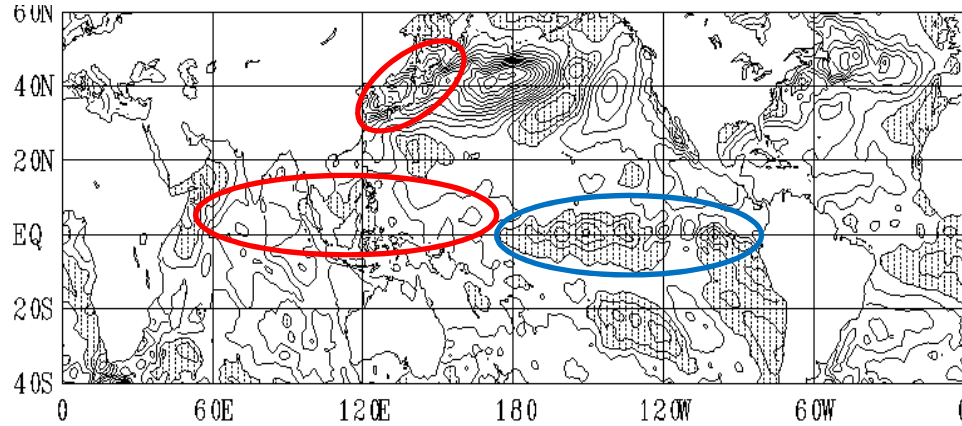
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南東に張り出し、中国東北区から千島の東にかけて高気圧がある一方、その間の東・西日本付近を中心に気圧の谷で、低気圧や秋雨前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

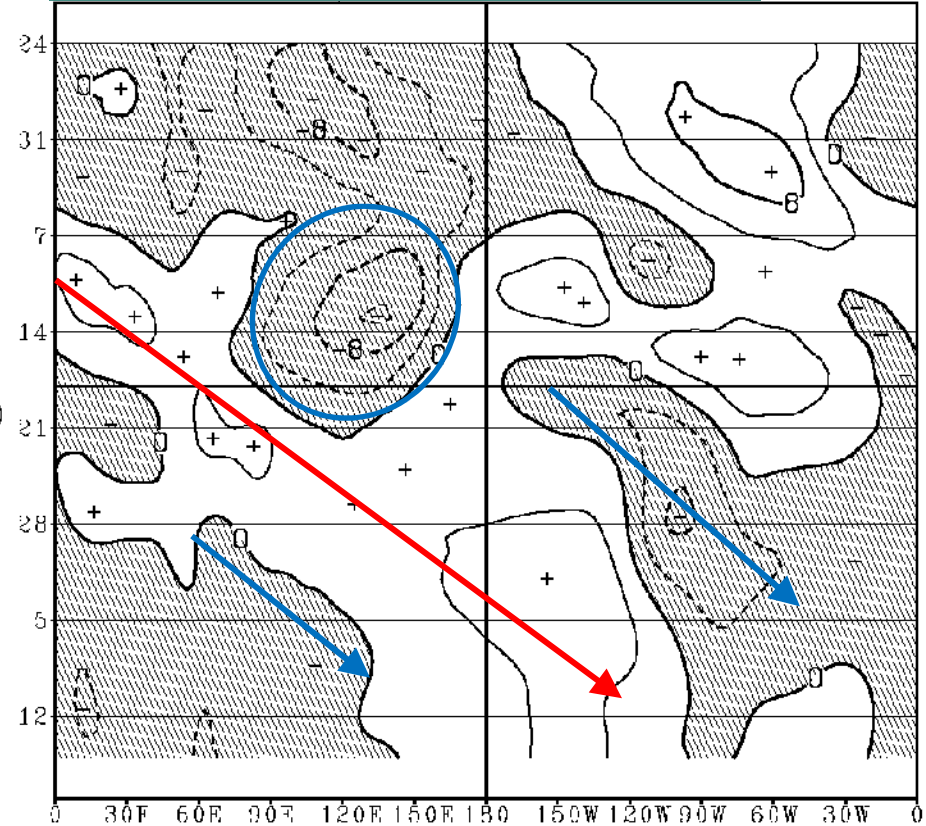
上空約1500mの気温(右図)は、東・西日本を中心に全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差



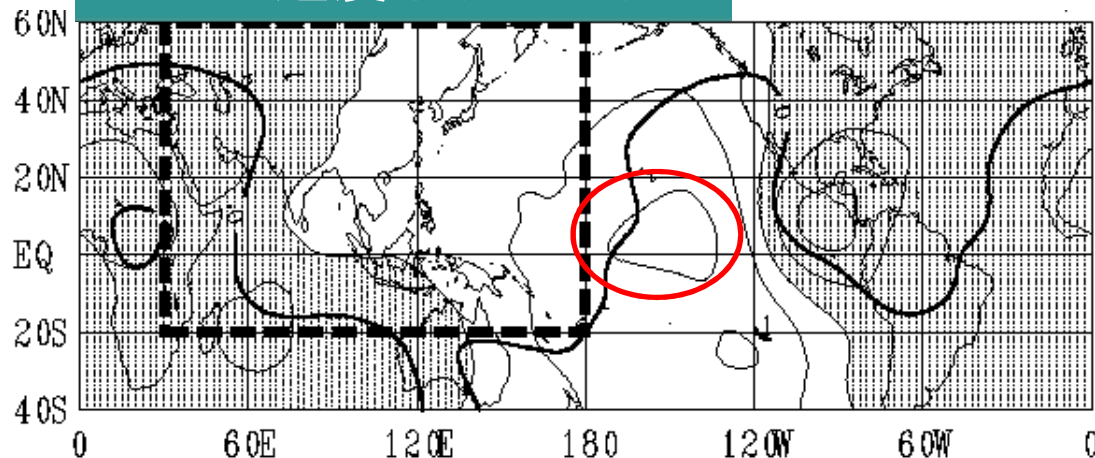
熱帯域では、インド洋から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋赤道域の中部から東部では負偏差。これらはラニーニャ現象の特徴が現れ始めていることを示している。
日本周辺海域で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



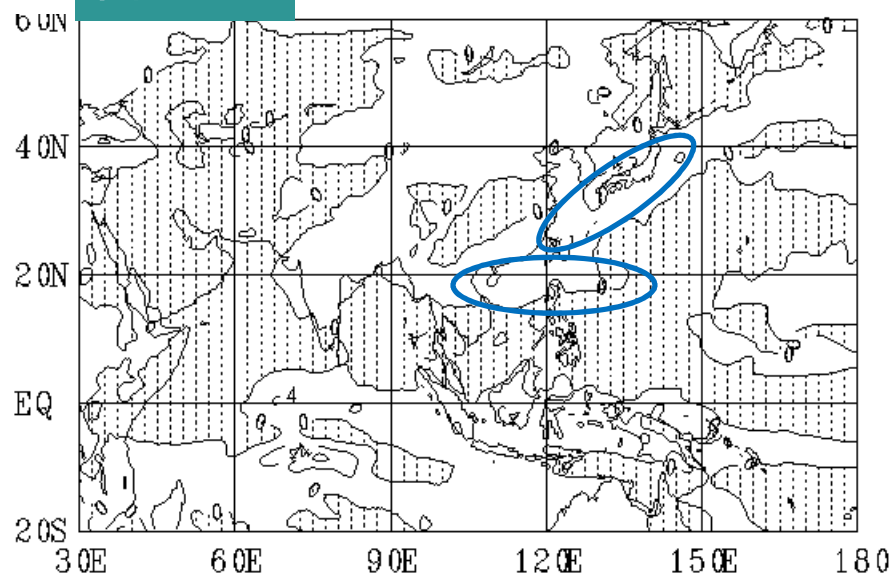
実況ではインドネシア付近で対流活発。予測では対流不活発域がインド洋から東進、予報後半には東部太平洋で対流活動不活発、インド洋で次第に活発化。季節内変動に加え、ラニーニャ現象的なSST分布の影響を示唆。

200hPa速度ポテンシャル



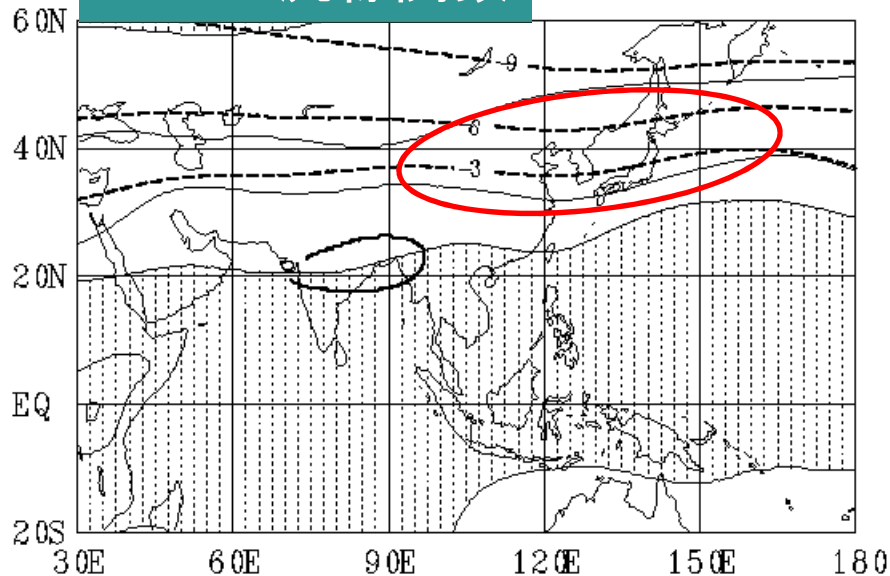
中部太平洋で上層収束偏差。
熱帯季節内変動とラニーニャ
現象的なSSTの影響を示唆。

降水量



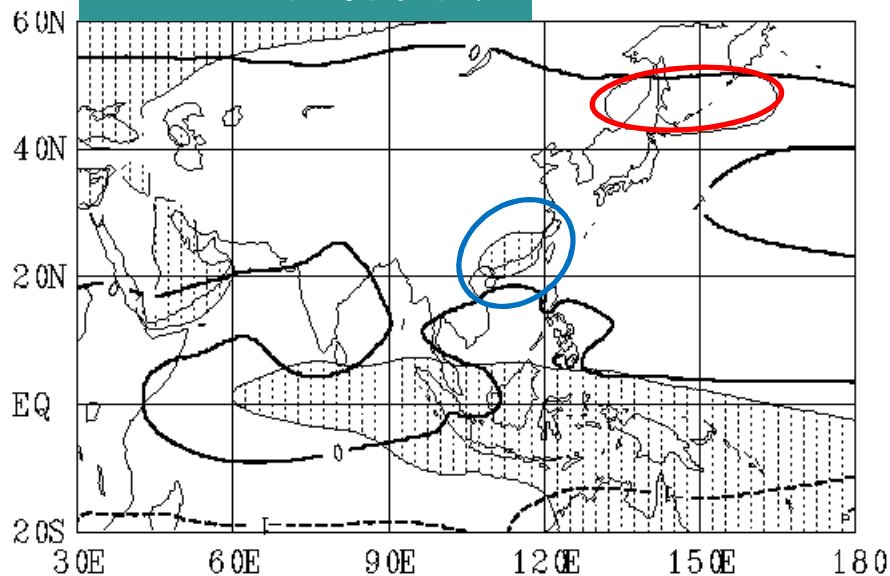
インドシナ半島付近からフィリ
ピンの東にかけて多雨偏差で、
北半球の熱帯季節内振動と
SSTの影響を示唆。
東シナ海から日本付近にかけ
て多雨偏差。

200hPa流線関数



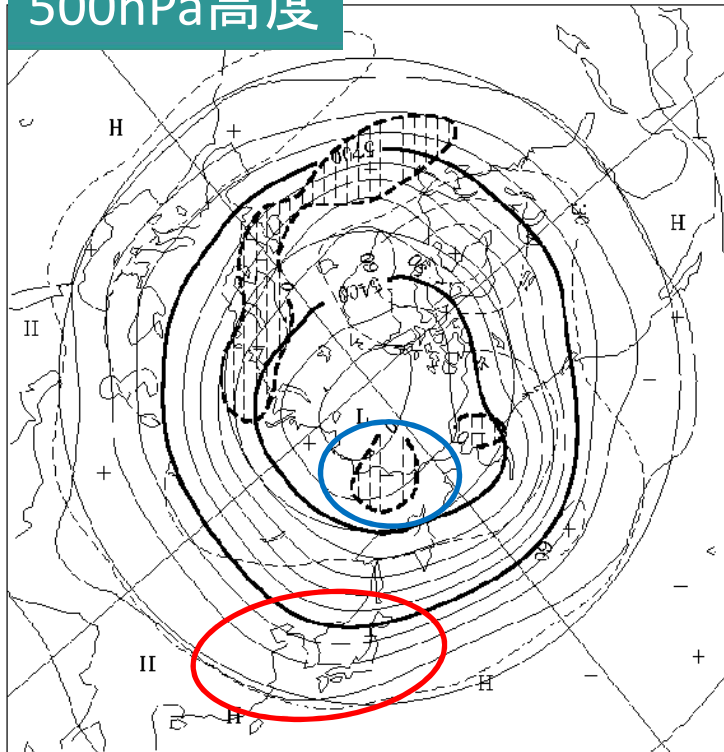
華北から日本の東にかけて帯状に正偏差。
亜熱帯ジェット気流は北に偏って流れる。

850hPa流線関数



南シナ海には低気圧性循環偏差。
また、オホーツク海付近には高気圧性循環偏差。

500hPa高度

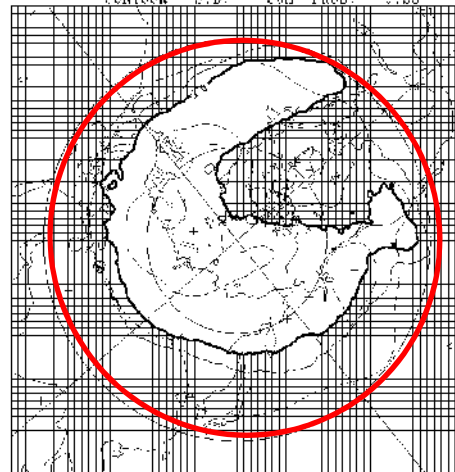
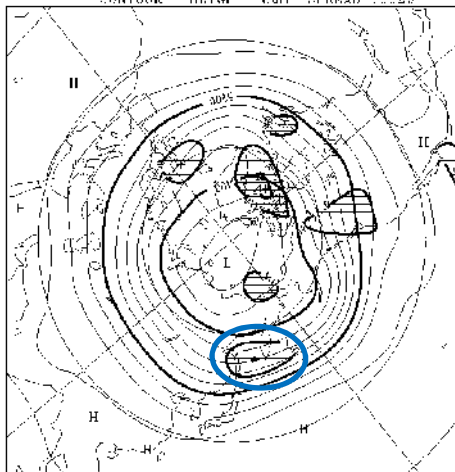


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

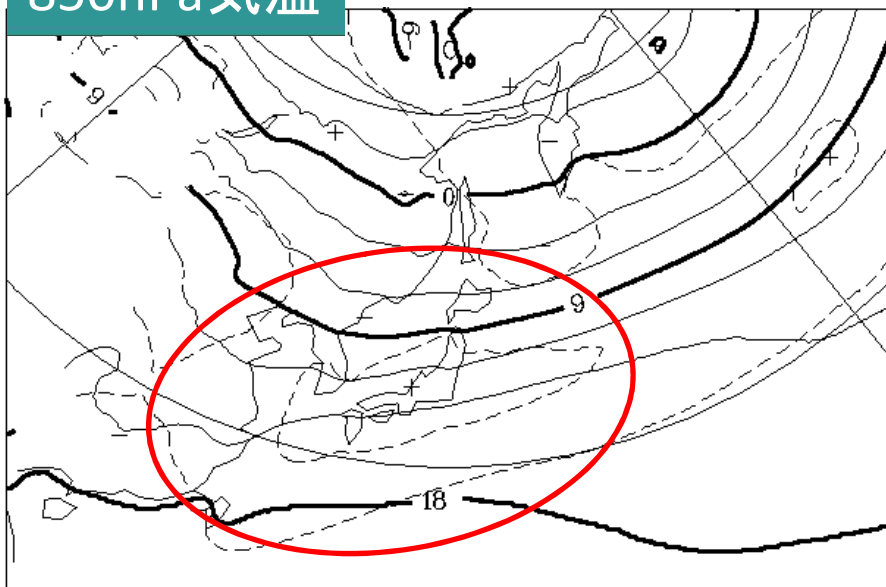
CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB: 0.25



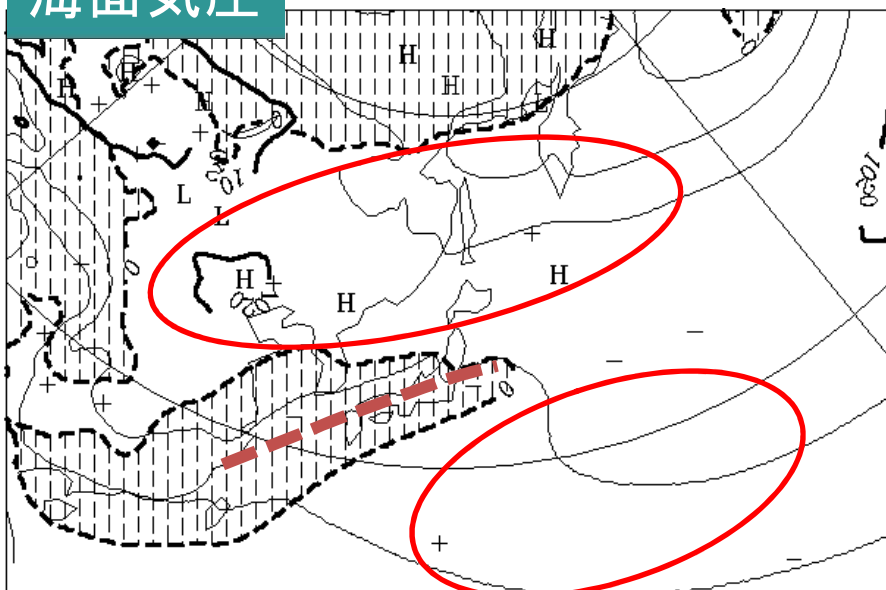
500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近は強い正偏差域がある一方、東シベリア付近には負偏差域がある。日本付近では偏西風が平年より北偏して流れ、全国的に暖かい空気に覆われやすい。オホーツク海付近ではスプレッドが大きく、予測の不確実性がある。

850hPa気温



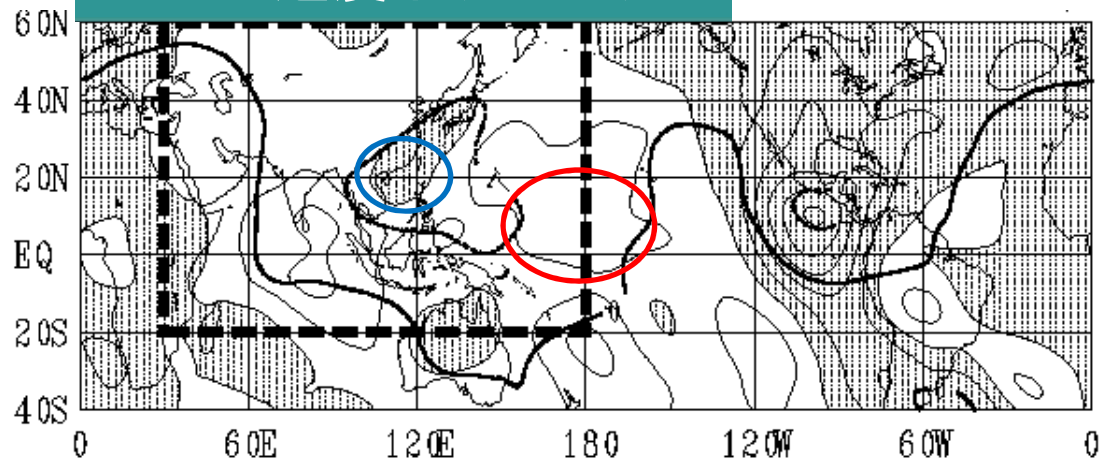
東・西日本を中心に全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



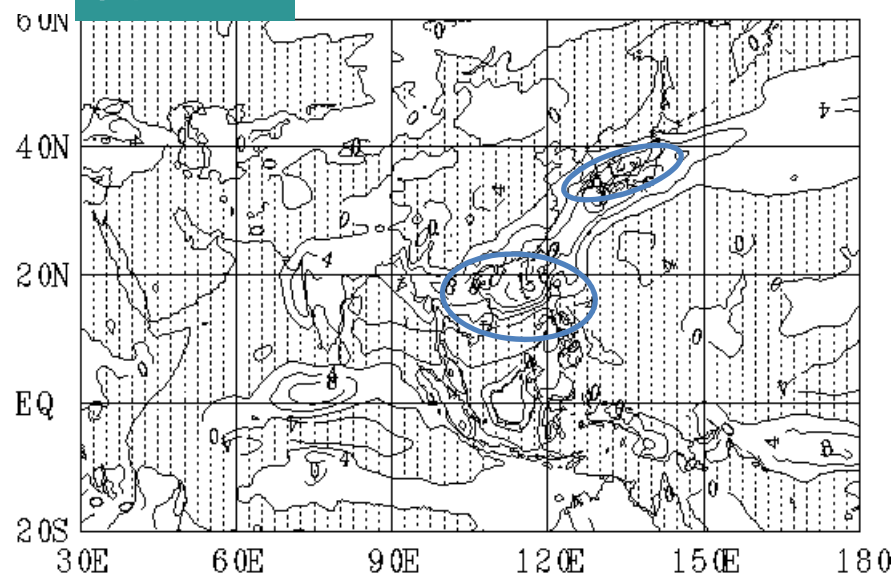
太平洋高気圧が日本の南東に張り出し、中国東北区から千島の東にかけて高気圧がある。一方、その間の東・西日本付近を中心に気圧の谷で、低気圧や秋雨前線、湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



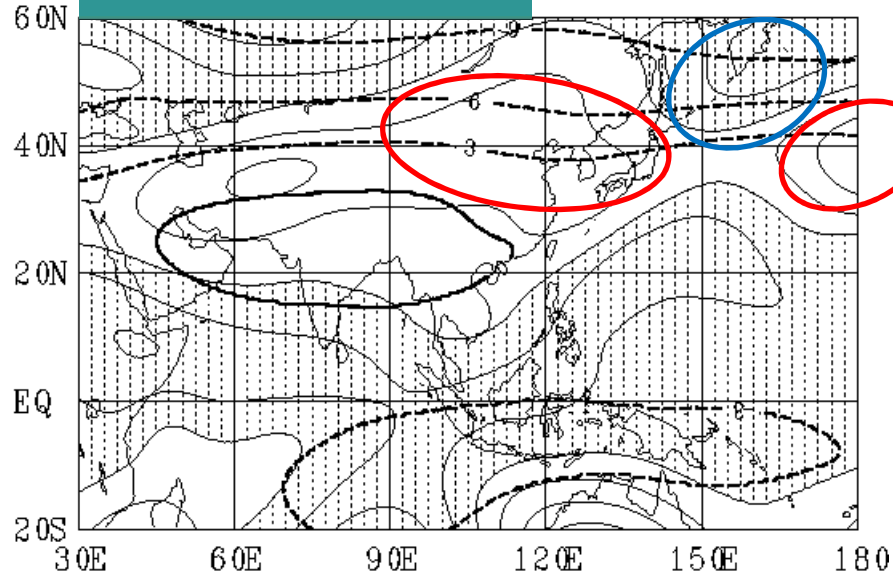
フィリピン付近で上層発散偏差。中部太平洋で上層収束偏差。熱帯季節内変動の位相とSSTを反映。

降水量



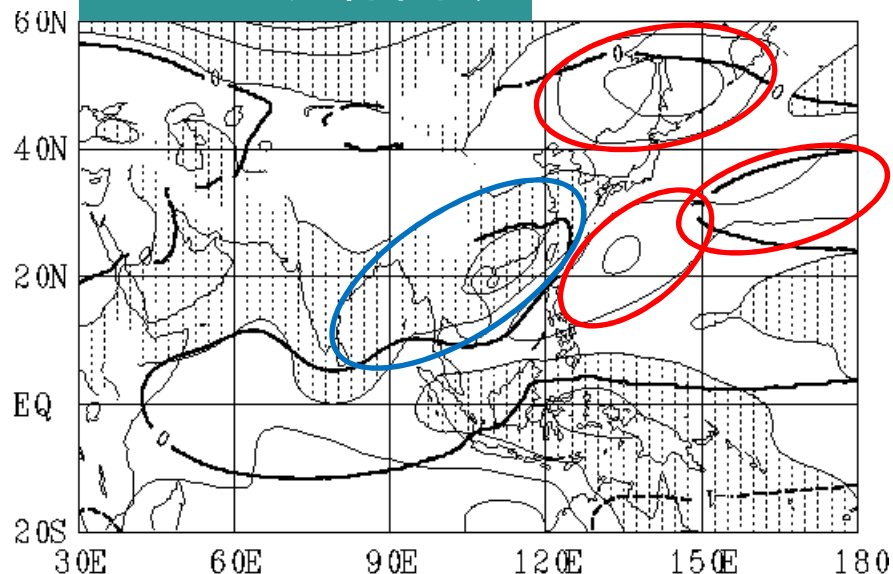
インドシナ半島付近からフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近でも多雨偏差。

200hPa流線関数



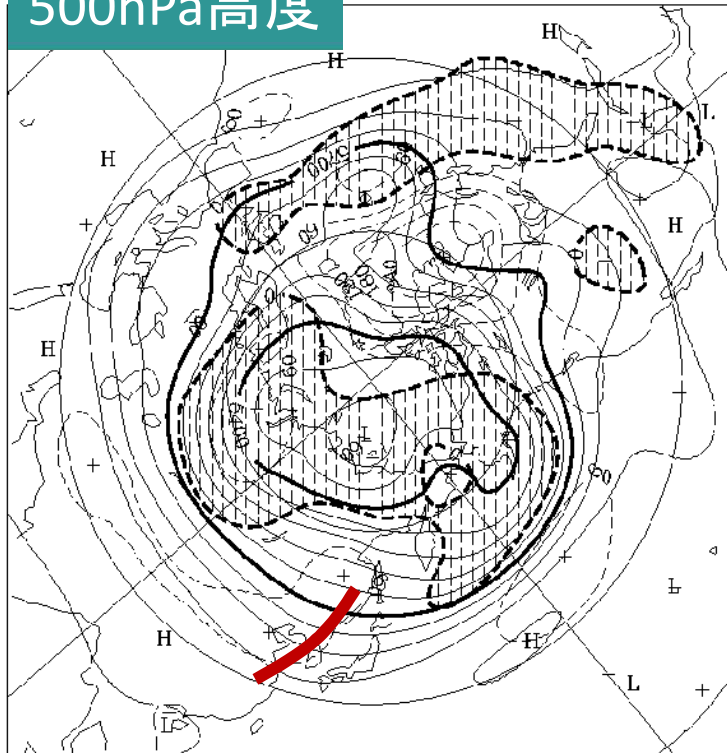
華北付近と日本のはるか東で高気圧性循環偏差、カムチャツカ半島付近に低気圧性循環偏差。波列状の偏差パターンが見られる。

850hPa流線関数

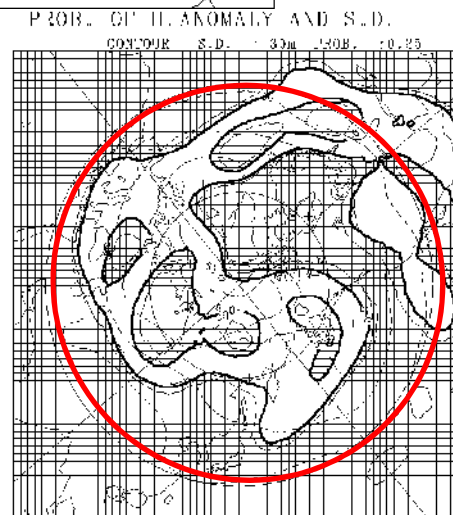
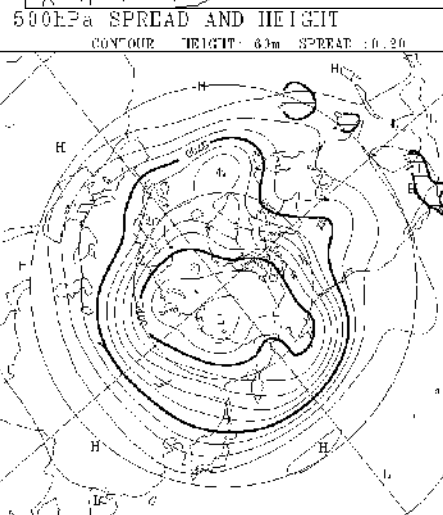


ベンガル湾から東シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南から日本の東には高気圧性循環偏差。インドシナ半島付近からフィリピン北東海上にかけての活発な対流活動の影響がある。
また、オホーツク海付近にも高気圧性循環偏差。

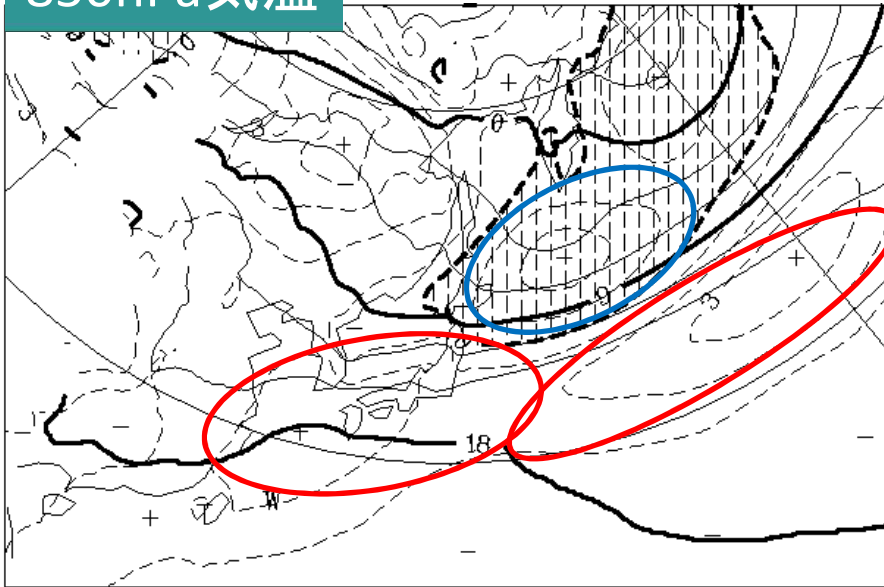
500hPa高度



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近は正偏差に覆われるが、沿海州から華中付近がトラフとなっており、日本付近は西谷傾向。

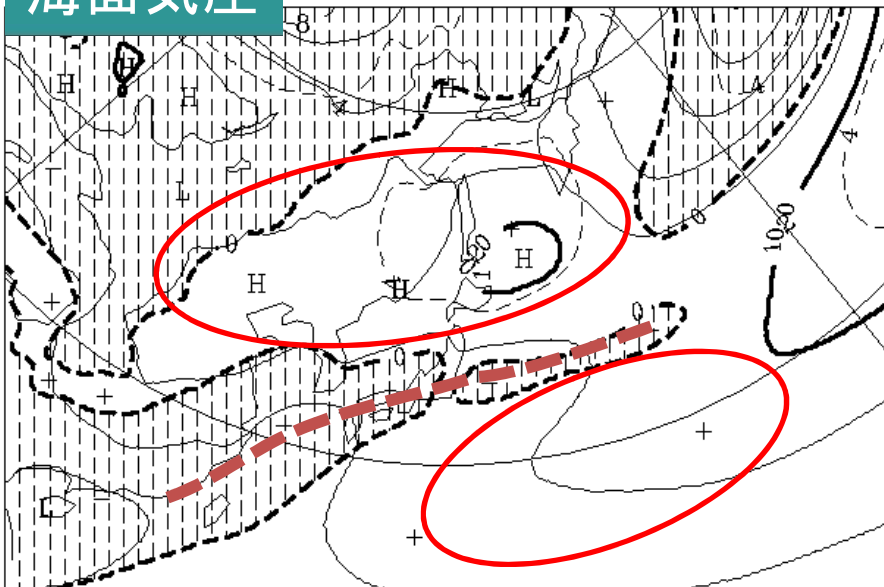


850hPa気温



日本付近は、北海道付近で低温偏差、本州以南は広く高温偏差で、南北の温度の傾きが大きい。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の南東で強く、中国東北区から千島近海付近にかけて高気圧がある。一方、その間の東・西日本付近を中心に気圧の谷。南北の温度の傾きが強く、太平洋高気圧の縁辺を回り湿った空気が流入しやすいため、秋雨前線の活動が活発となりやすい。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や秋雨前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

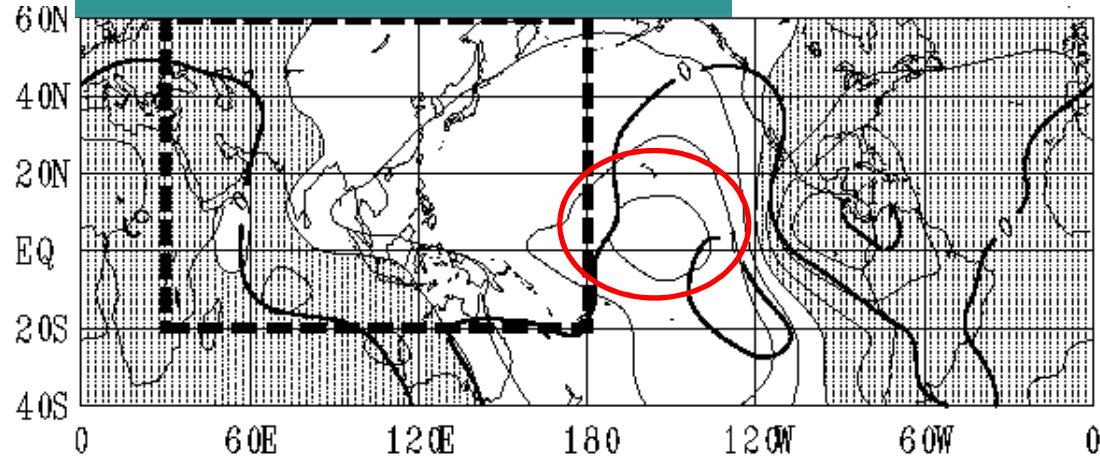
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温の所が多く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高くなる。北日本では、寒気の影響で平年並か低い日があり、かなり低い所もある。

<天候>

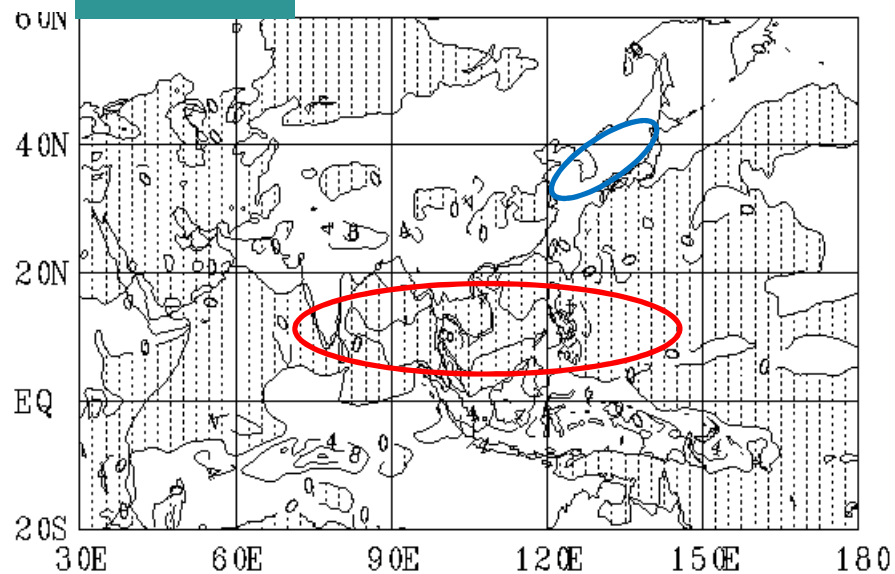
- ・北日本では、低気圧や秋雨前線の影響を受けやすいため、多雨傾向寡照傾向。
- ・東・西日本では、秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、多雨寡照。
- ・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、多雨傾向寡照。

200hPa速度ポテンシャル



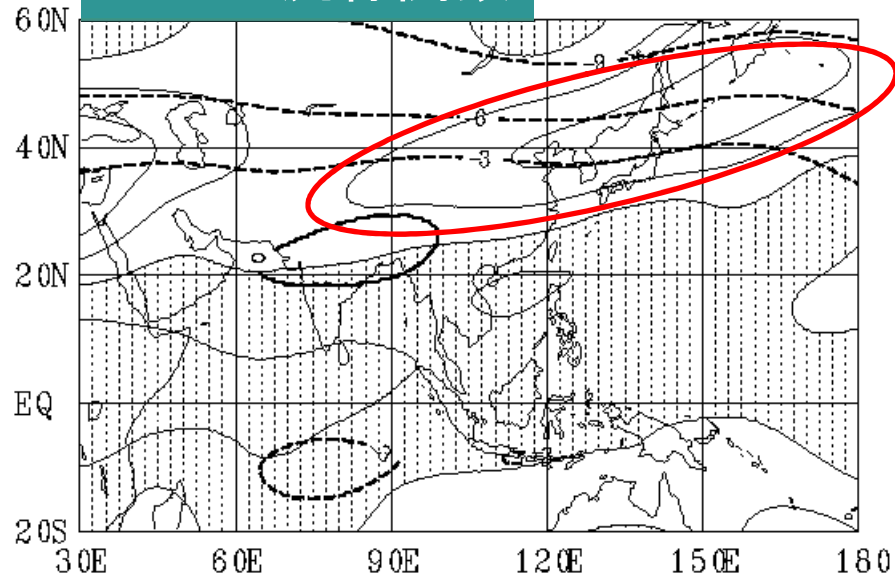
中部太平洋で上層収束偏差
でSSTを反映。

降水量



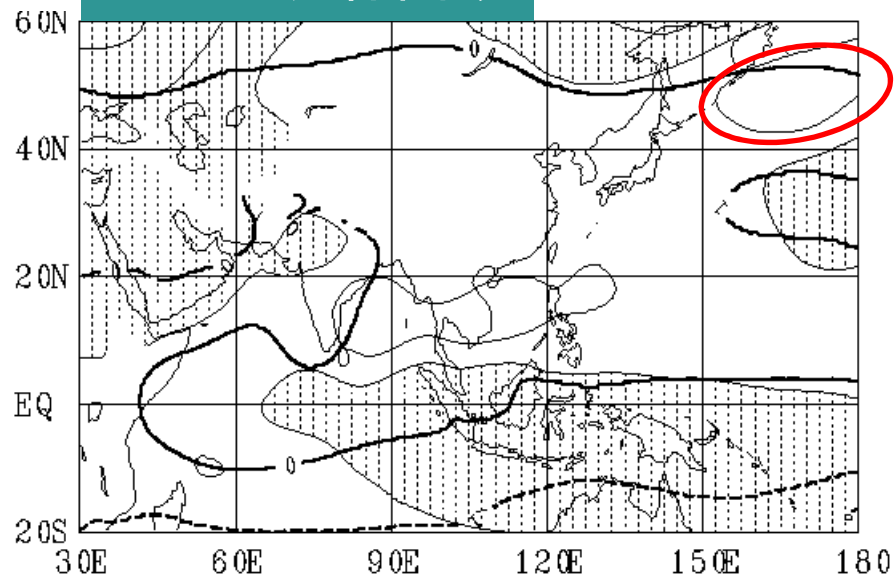
ベンガル湾付近からフィリピン
東方海上にかけて少雨偏差。
日本付近は日本海を中心にや
や多雨偏差。

200hPa流線関数



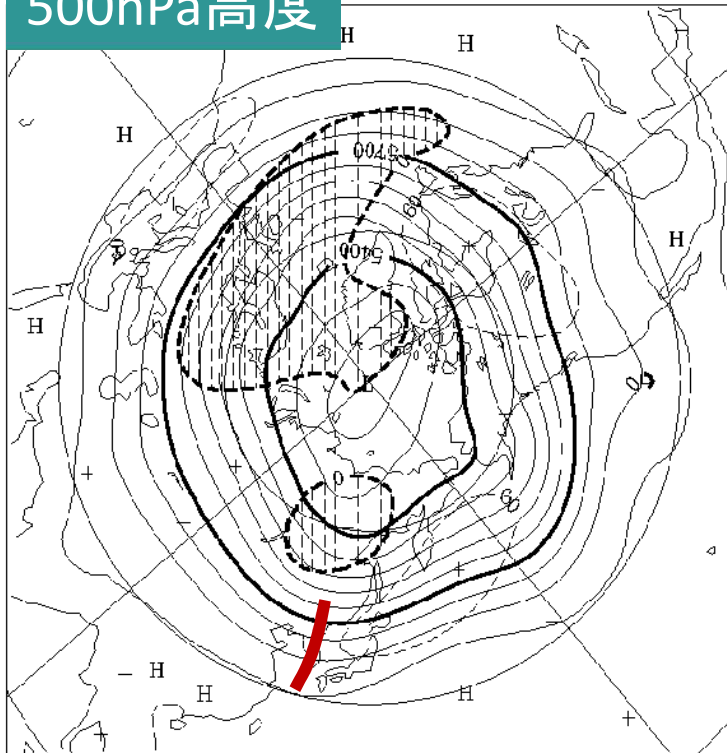
チベット付近から日付変更線にかけて帯状に正偏差。亜熱帯ジェット気流は北に偏って流れる。

850hPa流線関数



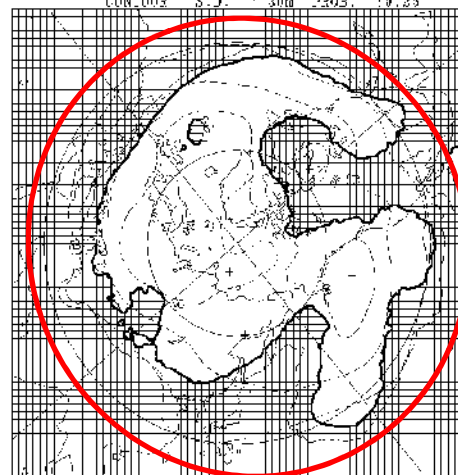
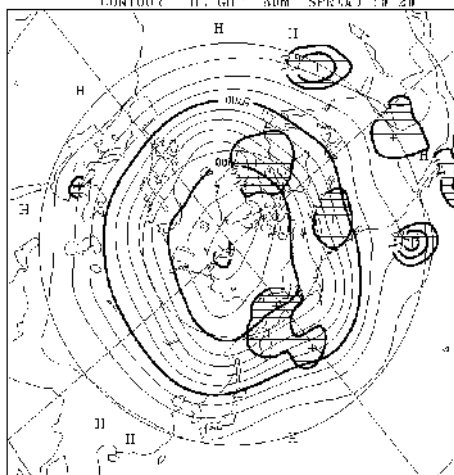
千島近海からアリューシャンの南にかけて高気圧性循環偏差。

500hPa高度



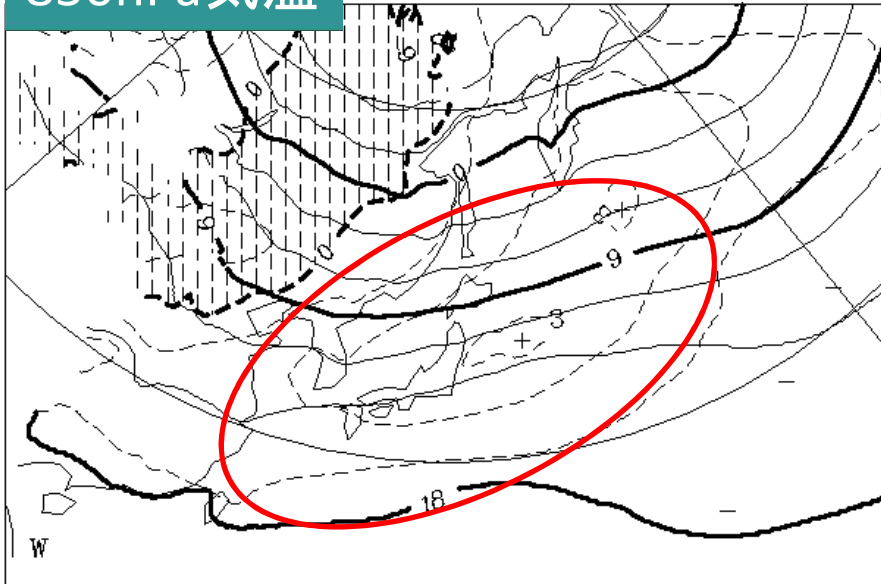
500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



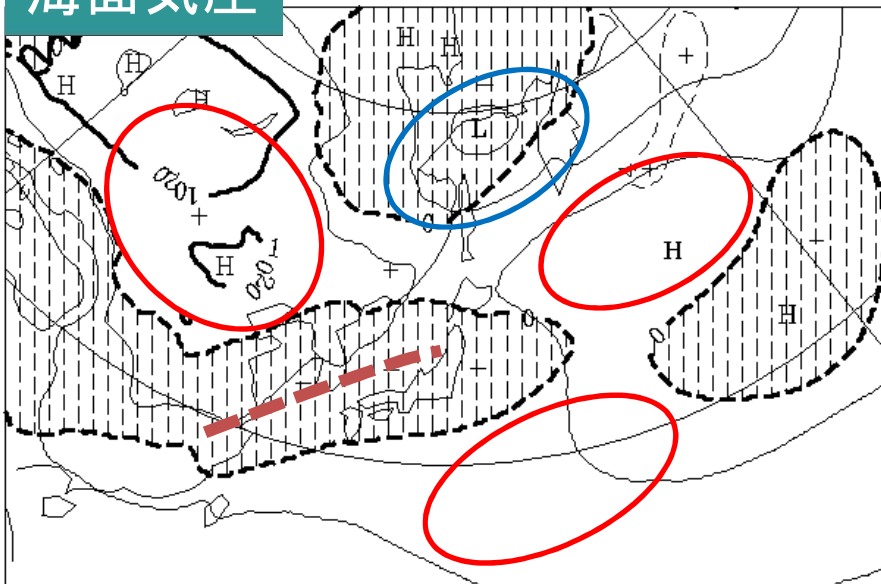
500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本付近を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。北日本からアリューシャンの南にかけて正偏差が強く、日本付近は正偏差に覆われるが、朝鮮半島付近がトラフとなっており、日本付近は西谷。

850hPa気温



日本付近は、広く高温偏差で、暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



太平洋高気圧の日本の南東への張り出しが続き、モンゴルから華北付近と千島近海からアリューシャンの南にかけて高気圧がある。一方、オホーツク海付近に低気圧、東・西日本日本海側付近を中心に気圧の谷で前線帯を予測。太平洋高気圧の縁辺を回り湿った空気が流入しやすい。このため、本州付近から南を中心に秋雨前線や湿った空気の影響を受ける時期がある。

想定される天候

北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

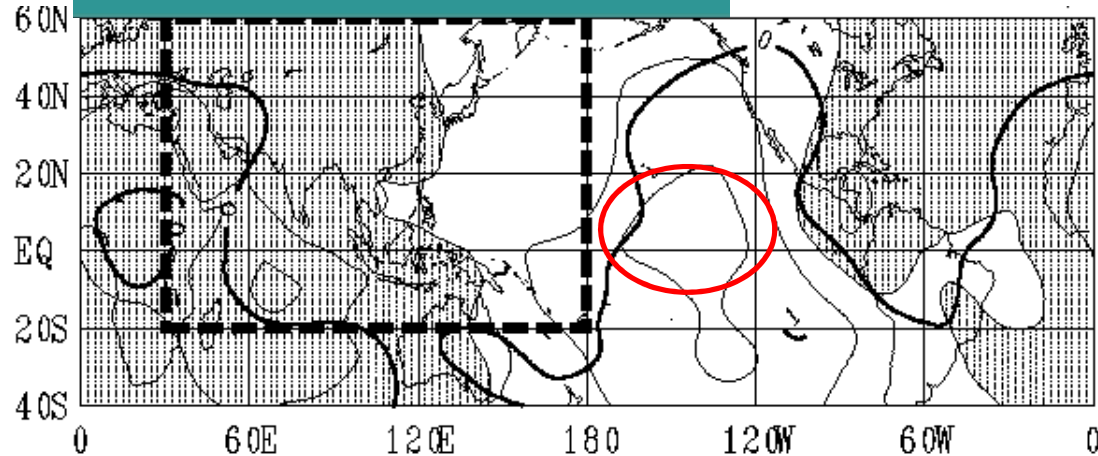
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、かなり高くなる。

<天候>

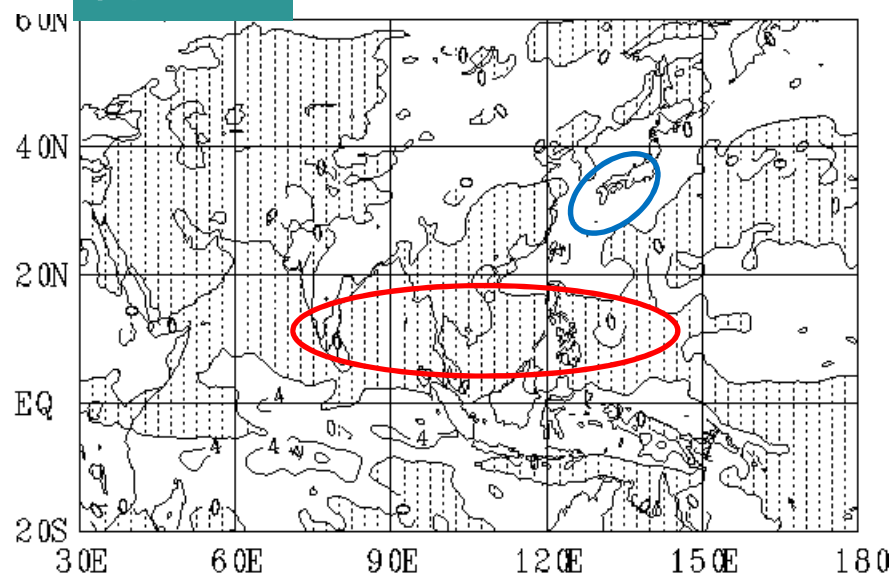
- ・北日本では、低気圧や秋雨前線の影響を受ける時期があるため、やや多雨やや寡照。
- ・東・西日本日本海側では、秋雨前線や湿った空気の影響を受ける時期があるため、やや多雨やや寡照。また、東・西日本太平洋側では、並雨やや寡照。
- ・沖縄・奄美では、並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



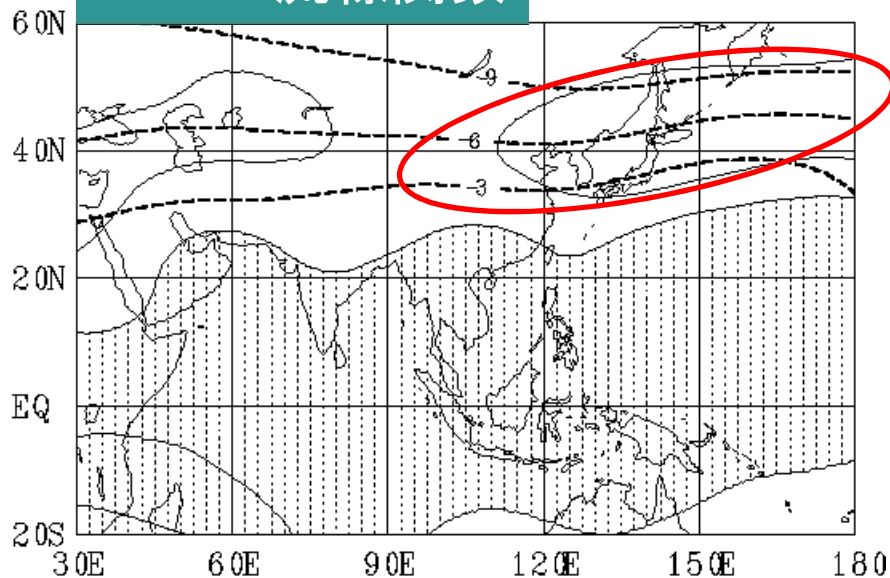
中部太平洋で上層収束偏差
でSSTを反映。

降水量



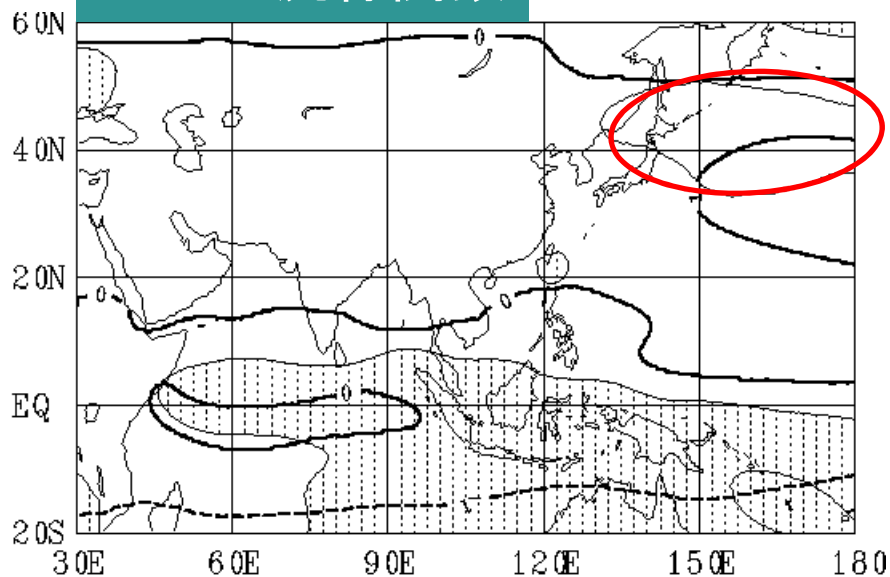
ベンガル湾付近からフィリピン
東方海上にかけて少雨偏差。
東・西日本と沖縄・奄美付近は
やや多雨偏差。

200hPa流線関数



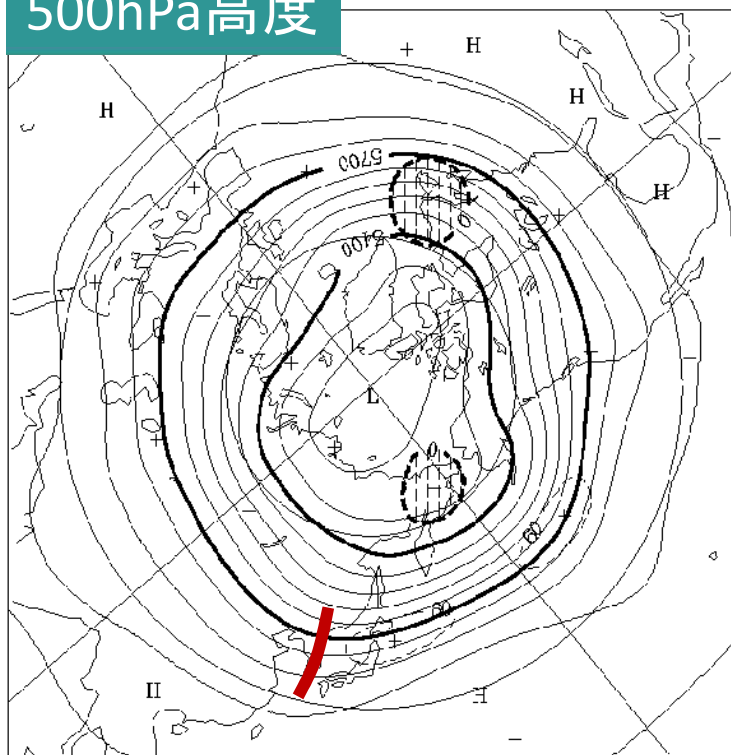
華北から日付変更線にかけて
帯状に正偏差。亜熱帯ジェット
気流は北に偏って流れる。

850hPa流線関数



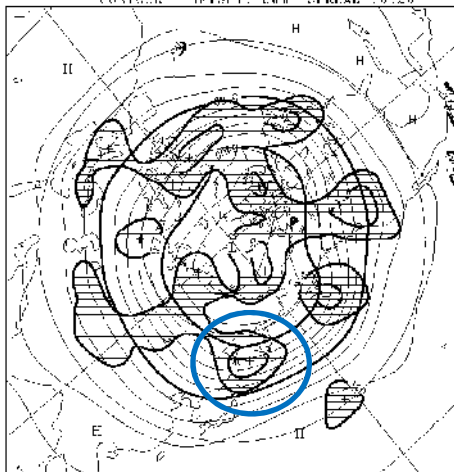
北日本付近から日付変更線付
近にかけて高気圧性循環偏差。

500hPa高度



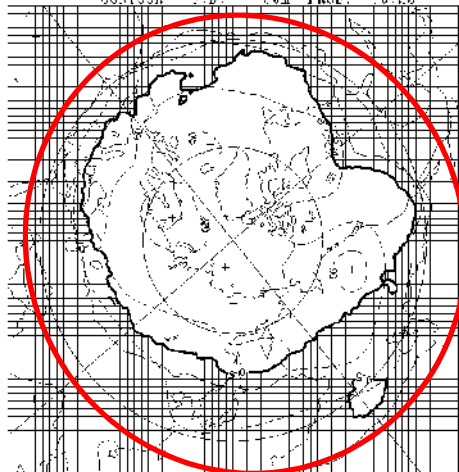
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



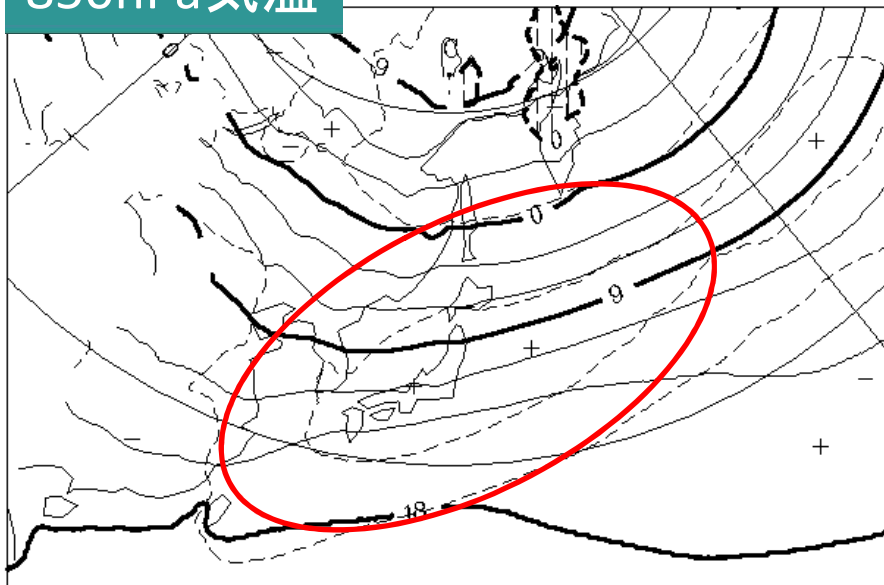
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



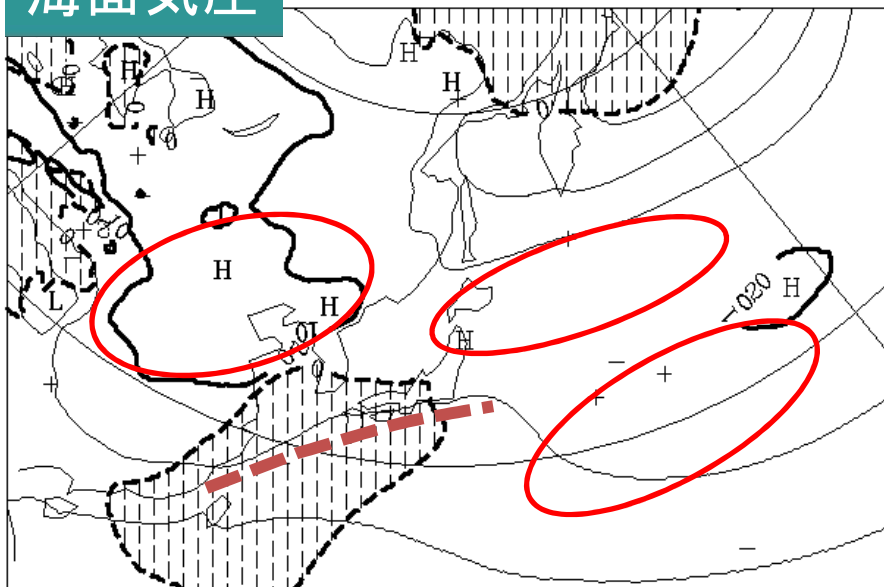
500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本付近を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近は正偏差だが、朝鮮半島付近がトラフとなっており、日本付近は西谷。オホーツク海付近でスプレッドが大きく、予測の不確実性がある。

850hPa気温



日本付近は、広く高温偏差で、暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



太平洋高気圧がやや東に後退するが日本の南東に張り出し、華北付近と北日本からアリューシヤンの南にかけて高気圧がある。一方、日本付近はこれらの高気圧の間で気圧の谷となり、東・西日本付近を中心に前線帯を予測。前線帯は2週目に比べ南下傾向。太平洋高気圧の縁辺を回り前線に向かって湿った空気が流入しやすいため、東・西日本と沖縄・奄美中心に秋雨前線や湿った空気の影響を受ける時期がある。

想定される天候

北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

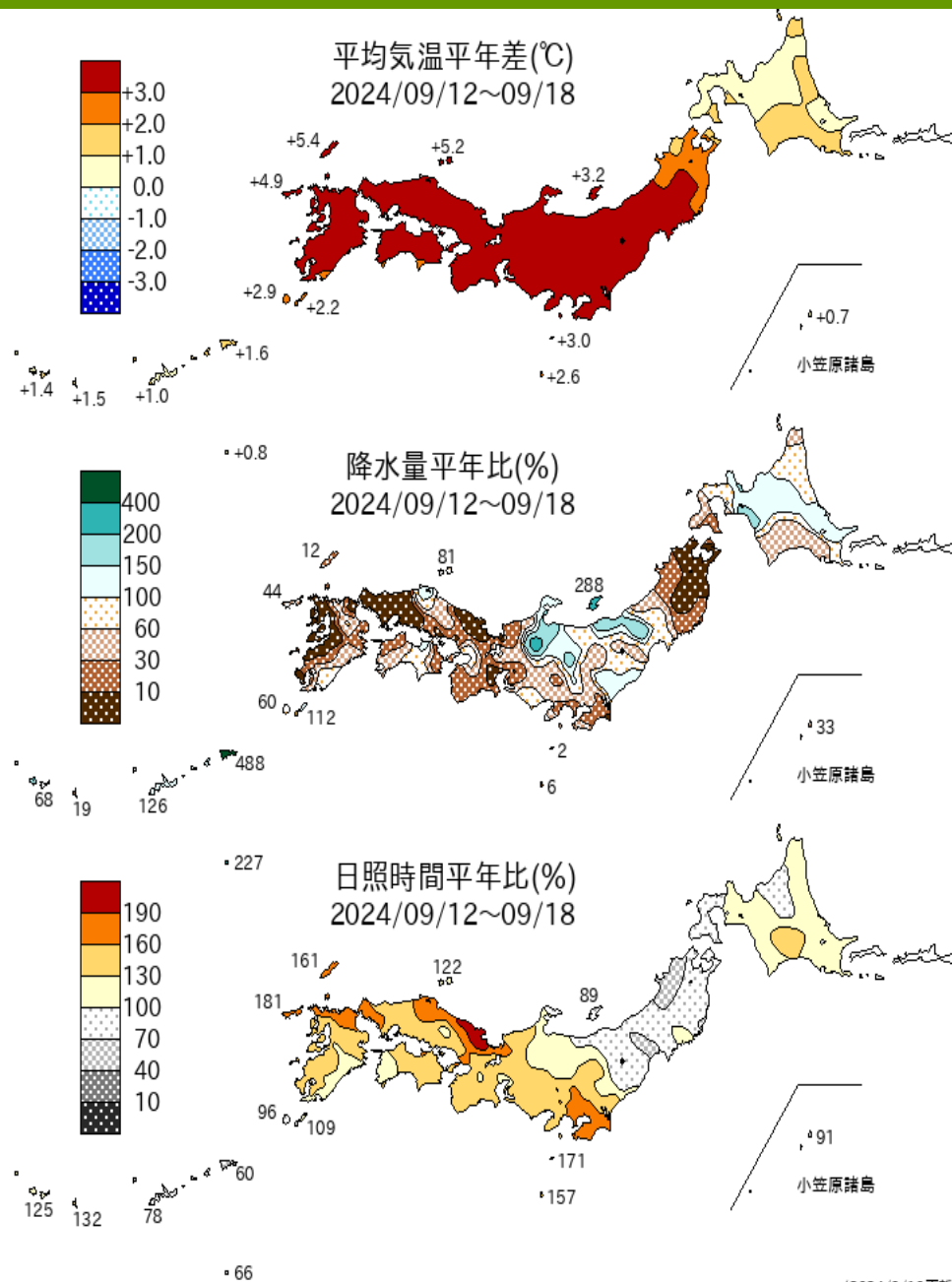
<気温>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温。

<天候>

- ・北日本では、並雨並照。
- ・東日本太平洋側と西日本では、秋雨前線と湿った空気の影響を受ける時期があるため、やや多雨やや寡照。また、東日本日本海側では、並雨やや寡照。
- ・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受ける時期があるため、やや多雨やや寡照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(9月12日~9月18日)は、秋雨前線が停滞しやすかった北日本を中心に曇りや雨となり、北・東・西日本で大雨となった所もありました。一方、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた所が多くなりました。沖縄・奄美では台風第13号や第14号の影響を受け、大荒れとなった所もありました。

気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、全国的に平年を上回りました。特に東・西日本を中心に、猛暑日の観測地点が継続し、12日と18日には100地点を超えるなど、日最高気温の9月の記録を更新した所もありました。